



NPO PTPL “ともいき” 便り No.25

■清明（せいめい） （2013年4月5日発行）

清明の節気です

今年は4月5日から4月19日まで。「天地に清く明るい空気が満ちる」という時期から名づけられました。むかしの日本人は自然の変化を、たった二文字で適確に言い当てています。節気を思うたびに驚きます。そして、そういう祖先をもつぼくたちは、幸せだと感謝の念が湧くと同時に五感を豊かにしなくてはと思うのです。

今年の、春の訪れ方といったら

どうしたことでしょう、この春の気象は。夏日が来たり、寒風にふるえたり。花粉症でおどしたり。どうも地球さん、人間の身勝手にあきれて、体調を狂わせてしまったのではないか。そんな気さえしましたが、やっぱり春は春。色さまざまな花々を咲かせてくれています。眼が、あちこち忙しくなりました。節気「清明」の通りに、万物目覚め百花撩乱の日本がしばらく続でしょう。

昨日のこと、舗道の敷石のほんのすき間に、おや？ 黄色を発見。見ればタンポポです。ペタリとへばり付いて咲いている。茎も葉も見えない。しばらく眺めながら感心してしまいました。自然というもの、生命というものの強さ、誠実さに、です。懸命さに、です。ごくごく僅かのすき間をわが地と定め、そこに命を懸けている。まさに“一所懸命”です。すごい。みごと。

あれこれ思わせる桜かな

桜前線も今年は狂っています。東京は関西よりも早く3月半ばに咲き、入学式を待たずに散りました。いまどの辺りを北上しているのでしょうか。東北被災地の辺りでしょうか。朝の祈りに、こころをこめて東北を思いました。

桜といえば、こんな思い出が甦ります。「さくら銀行」です。20数年前のこと、

三井銀行と太陽神戸銀行が合併し、1990年「太陽神戸三井銀行」という長い名前の銀行になりました。その新銀行のマーク創作で6社コンペがあり、ぼくのいた広告制作会社も某広告代理店から指名されて参加。

桜のマークで新銀行誕生

太陽神戸三井銀行は支店数が600店を越えて日本一となり、体力も増大。国際化時代に力をつけました。そこでぼくは「マークは桜の花」と考えました。新銀行は日本を代表する大銀行になった。だから日本を代表する花をマークに、との考えです。支店数日本一とは、お客さまの近くに支店ありということ。資本金増大は、海外支店も増加充実し強力にということ。

「あなたに近く、世界に近い太陽神戸三井銀行」とのキャッチフレーズで提案。ところが桜の花のマーク化がむずかしい。デザイナーは悩み、ギブアップ。メ切りは迫る。「そこで武蔵は考えた」ではないけれど、ぼくは一計を案じました。桜の花一輪と蕾をぼくがボールペンで描き、アナログのマークとして提案したのです。眼につきやすく、親しみがもてるように、です。

手描きの桜がマークに

当時、企業のマークといえはほとんどが、アメリカの影響を受けた抽象的形狀のデザイン。一見モダンですがマークがもつシンボル性はピンとこない。いわば感情のないデザインでした。しかし、銀行はお年寄りも利用が多いサービス業。親しみと好感度が大切。美的で覚えやすいマークが理想のはずです。

ぼくはそう考えて日本を代表する「桜の花」こそ新銀行にふさわしいと提案し、このコンセプトと手描きのマークが選ばれました。結果はお客さまに好評を頂き、桜の通帳を持ちたいというお客さまも増えたそうです。窓口の女子行員にも好評で、やがて銀行名も「さくら銀行」となったのでした。

その後バブル崩壊、不況のなかで企業の合併が進み、さくら銀行は三井住友銀行になりました。マークも再び抽象的パターンに。マークデザインの意図はよくわかりませんし、女性層には親近感が伝わらないのではないのでしょうか。

日本の独創性の無さを、こんなところにも感じます。中国、韓国、台湾などに抜かれてしまった日本企業の失敗の根っこにあるのは、西欧のマネ、横並びの狭い意識、独創性や想像力の貧困と創造力の弱さではないのでしょうか。

散る桜の花びらを浴びながら、こんな回想をしてしまいました。

清明の動画映像を楽しみましょう www//tomoiki.tv

「ともいき暦」の清明を見ると、日本に生まれた幸せが静かに湧いてきます。ぜひご覧ください。お知り合いにもお知らせください。

朝倉 勇 (NPO PLANTA TREE PLANT LOVE 理事)

ともいき・ともうみ雑感彼是

◆日本人と中国人の“ともいき”“ともうみ”から生まれた季語

北宋の画家、郭熙（かくき）の「山水訓」の、「春山淡冶（たんや）にして笑ふが如く、夏山は蒼翠（そうすい）にして滴るが如し、秋山は明浄（めいしょう）にして粧ふが如く、冬山は惨淡（さんたん）として眠るが如し。」から引用して春夏秋冬の山をそれぞれ「山笑う」「山滴る」「山粧う」「山眠る」と山を擬人化し、日本人が俳句の季語にしたものです。

●「山笑う」

早春の山がうっすらと霞をまとい、艶めいてくること。生気が山に兆し始めた春の胎動を「笑う」ととらえたのでしょう。

●「山滴る」

夏に崖の岩肌に伝わったり、苔などに沁み込んだ水が雫となってポタポタと落ちる、みずみずしい視覚的な美しさとポタポタという聴覚的な味わいを持つ、夏山を言い当てて見事な言葉ですね。

●「山粧う」

秋黄葉や紅葉に彩られた美しさに、いろどりの美しい織物を見に粧っている、秋の山のことをいったのでしょう。

●「山眠る」

落葉しつくした山々が冬の陽を受けて静かに眠っているように見えます。

※ 日本人と中国人の自然への観賞、観察力、つまり“人と自然のともいき”と日本人と中国人の創造力でつくりあげた、つまり“ともうみ”で創った季語だと考えます。

勝田 祥三 (NPO PLANTA TREE PLANT LOVE 理事長)

■ 事務局だより

◎首都圏の今春の桜は、ソメイヨシノと枝垂れ桜と一緒に楽しめたり、例年とは違った花見の感がありました。東北以北の方々はこれからですが、みなさんの地域はいかがでしょう？

◎「No25 清明号」から「ともいき便り」も2年目に入ります。これからも季節の移ろい感や「ともいき」という価値観、生活観などをお届けいたします。お楽しみください。

◎「ともいき便り」をぜひ、お知り合いの方々にご案内をお願いします。お知り合いへの郵送をご希望の方は事務局にお申し出ください。対応させていただきます。
メールでお届けしている方は、是非とも、転送をお願いします。

◎facebook「ともいきぐらし」もご覧ください。

(<http://www.facebook.com/tomoikigurashi>)

こちらも、お知り合いの方々へご案内ください。

■お問合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒108-0073 東京都港区三田 2-21-11 パークハイム三田 103 号

電話：03-6436-0335 FAX：03-6436-0337 Email：info@plantatree.gr.jp